

<自主的努力項目記入書式>

提携先	旭愛農生産組合	記入日	2010/10/23
登録消費材名	たまご10個パック（あいこっこ） たまご5kg（あいこっこ） たまご7kg（あいこっこ）		

I. これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

- ・日本の風土にあった純国産鶏の飼養にこだわり、生産効率重視の外国産鶏の飼養は行わない。
- ・非遺伝子組み換えの大豆、PHFとうもろこしを原材料に使用し、その他の原料においても生産地、生産状況を確認している。それらこだわった原料を自家配合し飼養している。
- ・生れて1日目のひよこから各農場で飼養を開始し、一貫した管理を行っている。また、鶏舎内及び鶏卵のパック詰めを行う作業場においても化学合成物質の使用を無くし、清掃においても薬品などの使用を一切行っていない。
- ・地域的な飼料米取り組みに参加し、配合飼料へ使用及び飼料米用水稲への醗酵鶏糞の堆肥使用を中心とした、地域循環型農業に取り組んでいる。

II. 前年度に努力したことへの評価(成果や課題)

- ・出荷数量及び生産力に応じた各生産農場における飼養鶏数を適正にし、現在の餌原料の高騰などのコスト高に対応して、適正な生産管理を行った。
- ・鶏卵出荷において使用するダンボール、モールドパック、モールドトレイの発注、在庫数量、保管を組合施設にて一元管理し、より無駄なコスト使用削減に努めている。

III. 上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

- ・今後もよりコストのかからない、また、品質を向上させる餌の原料の選定に努め、より飼料の向上に努めていく。また、原料だけでなく飼養環境を考慮し、平飼いだけでなくより自然環境に適合した養鶏を目指す。
- ・昨今養鶏において大きな問題になっている「鳥インフルエンザ」を踏まえ、効率重視ではない地域環境に根差した本来の養鶏業を指向し、現状の維持ではなく新しい取り組みを積極的に行っていく。具体的には国産鶏にこだわったうえでの品種の選定から、飼養環境の改善（羽数・鶏舎形態）、より鶏の体調、たまごの品質向上を行える餌の選定を行っていく。